

精神科病院委員会「活動状況と今後の展望」

委員長 医療法人社団長久会 加賀こころの病院 中川 将人
医療法人社団浅ノ川 浅ノ川総合病院 澁澤 宗

日本における5大疾病とは、「がん」「脳卒中」「急性心筋梗塞」「糖尿病」そして「精神疾患」です。その中でも一番患者数が多いのが精神疾患であり、うつ病の増加や高齢者における認知症の増加など年々患者数は増え続けており、精神疾患は国民に広くかかわる疾患となっています。精神疾患とともに以前は未知の病と言われたがんなどが、ゲノム化学の進展とともに急速に原因が解明され、あと数年で克服できると言われていますが、精神疾患はゲノム解析が進んでいるものの、まだ依然として病態薬理が分からず、さらに診断基準となるべきバイオマーカーが発見できていない状況で、おそらくあと数十年はかかると思われまます。

一方、なぜか？というより幸運にも有効な薬は存在しているという不思議な状態で、このことが臨床現場において医師によりかなり処方異なるという状況を生み出していると思われまます。

そういう中、精神科病院委員会は、各個人に対して最も適切な向精神薬を選択し、その治療効果を最大限に引き出す一方で、副作用は最小限に抑えるという「精神科薬物治療の最適化」を目標に活動を展開しています。

主な活動としまして、年に2回開催している精神科臨床薬学(PCP)研究会と年に数回開催している精神科病院委員会研修会の企画・運営があります。精神疾患患者の大きな治療目標の1つが社会生活を営むことであるため、病院薬剤師はもちろん、保険薬局薬剤師による薬物療法への支援が重要となります。そこで、研修会のうち1回は石川県薬剤師会との共催という形で開催し、薬剤師全体の知識・能力の向上に貢献できるよう努めております。また、定期的に委員会および懇親会を開催して委員同士の親睦を深めることで、より強い連携の構築を目指しています。

精神科病院だけでなく一般科の病院の先生方にも精神科の領域に少しでも関心を持っていただき、精神科の薬剤に抵抗なく適正使用にお役立ていただけるような研修会を目指し、熊橋先生を主管に委員全員で活発な運営を行っております。

現在では COVID-19 感染症の影響で通常の研修会開催がなかなか困難となっておりますが、前回

の精神科病院委員会研修会では、久留米大学の小鳥居望先生に「効果のメカニズムを念頭においた睡眠薬の治療選択」をテーマにわかりやすくご講演いただきました。PCP 研究会は講師の先生方の講義だけでなくワークショップの時間も設けられており、普段抱えている臨床での疑問を参加者全員で共有・解決できる貴重な場となっております。「なかなか敷居が高いな」と感じておられる先生方も、ぜひ一度足を運んでいただければ幸いです。

皆さんがさらに石川県の向精神薬の適正使用に努めることができるよう、今後も委員一同貢献していきたいと思ひます。

